

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2895100028		
法人名	医療法人社団 旭診療所		
事業所名	グループホーム あかね雲		
所在地	兵庫県神戸市中央区旭通2丁目9番5号		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	平成26年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2丁目2番14-703号
訪問調査日	平成26年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三宮から徒歩10分程度の場所にあり、都会育ちの方にはうってつけの環境です。運営理念を、スタッフ皆でブレインストーミング法(利用者の視点に立って意見を出し合う方法)を用いて決めており、その理念に基づいて、利用者様の気持ち、利用者様の幸せを中心としたケアをしていこうと努めております。法人名でもある旭診療所がすぐ隣にあり、密接な連携体制にあります。また同法人の老人保健施設とも連携をとっており、利用者様の状態に変化がありましても、法人内で、とぎれのない臨機応変な対応が可能です。また併設のデイサービス職員である理学療法士、旭診療所の医師・薬剤師・管理栄養士と連携体制にあり、専門性の高いケアを提供しております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①**理念の実践**・入居者が「地域の方と共に」「家庭的なケア」により「信頼関係を築き」ながら「現有能力を活用」し自立した日常生活が送れるよう『3S(Smile:笑顔で対応し笑顔で過ごして頂きます Service:ご希望やご要望に柔軟に対応します Support:在宅生活の継続を支援します)』を基軸に実践している。②**生活を豊かに**・適度な刺激となる演出により日常生活が豊かなものとなるように努めている。「月1クッキング行事:すき焼き、海鮮丼、焼き肉、バラ寿司、餃子等」「外出行事:花見(桜、紫陽花、紅葉等)、苺狩り、淡路島ドライブ、外食レクリエーション等」「屋上での園芸(さつま芋、玉葱、大根、じゃがいも等)」③**安心感のある医療連携体制**・法人内でタイムリーに医療面での専門知識の習得やアドバイスを受ける(理学療法士よりの意見等)環境が整備されている。④**地域連携**・地域防災ワークショップへの参加や民生委員との交流等、開設以来徐々に地域との係わりが深くなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の視点に立って「地域の方と共に」「家庭的なケア」「信頼関係を築く」「現有能力の活用」を柱とした理念を作り、各フロアの入口に掲示して毎日確認し実践に努めている	職員は、事業所理念を十分に理解し、日々のケア及び入居者の共同生活が心地良いものとなるよう、地域の協力も含め多くの意見を出し合い、共有しながらその実践に積極的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあい喫茶、はつらつライブ等地域行事への参加をしている 消防訓練に地域の方が参加され、見学も同時に行っている 地域の民生委員の見学会を行った スタッフが小野柄ふれまの委員をしている	近隣商店との深い係わり、地域交流センターでの『ふれあい喫茶・はつらつライブ』への参加、避難訓練への地域住民の参加や民生委員との交流等、多岐にわたり地域との連携が深まってきている。	地域の社会資源として、今後も、地域密着型サービス理解と浸透への積極的な取り組みに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員・児童委員の方々から依頼を受け、認知症の高齢者の施設としての見学を受け入れている また、地域住民の介護相談を、無料で受け付けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業者の報告と共に、利用者・ご家族、あんしんすこやかセンター職員、知見を有する者等参加者の意見や要望を重視しており、積極的にサービスに取り入れるようにしている	会議には、入居者も参加し事業所の実情を披露してくれている。事業所からの一方的な情報発信ではなく衛生面・安全面、地域交流、ケアの精度等様々なテーマで相談・検討し運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や中央区グループホーム連絡会等で、神戸市や中央区担当者とケアの取組み等についての情報交換を定期的に行っている	区のGH連絡会が発足され、それに参加し(市の職員も出席あり)、意見交換・課題検討等を行っている。また、市や区の担当者とは日常的に連携を取るよう努め、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に研修を行い、またマニュアルを作成して、身体拘束を理解するよう徹底している また身体拘束廃止委員会を中心に、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・勉強会を通じ、職員は「身体的拘束等の弊害」について十分理解している。身体拘束廃止委員会を設置し月例での事例検討を実施し、その廃止に取り組んでいる(行動制限につながるような薬の考え方等)。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての外部研修に参加している 虐待の施設内研修は年3回行い、不適切ケアの段階から改善に取り組むよう学び、努めている つぶやきノートを作る等、スタッフのストレスの軽減を工夫している	本人本位の生活支援のため、「不適切なケア」のレベルからの払拭に取り組んでいる。職員のメンタルヘルスについても配慮している(「つぶやきノート」、個別面談等)。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見支援センターから資料をもらい、スタッフ全員に配り、研修を行う等して学んでいる また、利用者の成年後見人との関わりを通して実際に学んでいる 利用者ご家族にも、適時制度利用をお勧めしている	現在3名の方が権利擁護に関する制度を活用しておられる。職員は、研修を通じ制度について理解しており、入居者の現況に応じ、家族への制度活用の有用性の提案等も行っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について、Q&Aもお渡し時間をかけて説明し、疑問点等を尋ね十分納得いただけた上で契約している 全職員に対し、契約書・重要事項説明書を理解する研修を行っている	見学→面談(質疑応答)→契約という流れで疑問点・不安感等がない状態での入居となるよう取り組んでいる。「Q&A」を利用し、よりよく事業所を知ってもらっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の掲示、意見箱の設置、運営推進会議・家族会の開催を通じ、利用者、ご家族のご意見を伺う機会としている また「気持ちシート」による聞き取り、嗜好アンケートを実施し、ケアに反映させている	運営推進会議、家族会、来訪時、電話、意見箱等、様々な機会を設けて要望・意見を聴き取っている。頂いた意見等に対しては必ずフィードバックしサービス向上に活かしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員の全体会議、フロア会議を開催し、スタッフの意見を業務に反映させている 全スタッフが自由に提案等を書き込めるつばやきノートを設置し、提案事項を運営に反映させている	月例会議(全体会議、フロア会議)の場面及び個別面談、「連絡ノート」「気づきノート」等により職員からの意見・提案を吸い上げ共有し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせて労働条件を整備している また利用者の担当、委員、フロアリーダー、計画作成担当等の役職を設けることで、それぞれの能力ややりがいを発揮できる場を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には入職時研修を行い、また月1回のペースで全スタッフに対し職場内研修を開催している またスタッフを認知症介護実践者研修等の外部研修に参加させている 研修は業務としてみなし、報告書を提出させ、報告内容を業務に生かしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区グループホーム連絡会を通じ、定期的と同業者と交流し、情報交換に努めている また、他ホームに見学に行き、サービスの質向上を図ろうと努めている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人にご要望をお聞きしケアプラン及び支援に反映させるようにしている またこれまでの生活についてお聞きし、生活の継続性をできるだけ保ち安心して過ごして頂けるよう努めている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、ご家族にご要望等をお聞きしケアプラン及び支援に反映させるようにしている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントにおいて、より強い希望がある課題から順に挙げ、ケアプラン及び支援を考案しスタッフに申し送っている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ここが入居者様にとっての家であるという視点に立ち、スタッフと入居者様とが、共に支えあい毎日を過ごしていくような関係を目指すよう運営方針を定めており、努力している		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的に、ご家族様にはご面会に来ていただくようお願いし、ケアプランに挙げている 居室以外にも家族面会室を用意し、自由にお使い頂いている 毎月サービス報告書をお送りし、ご本人の様子をご家族様に知って頂くようにしている		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントに基づき、馴染みの生活をできるだけ継続できるよう支援している 個別外出表を作り、個々のなじみの場所への散歩をご支援するよう努めている	家族との外出・外泊(買い物・食事・墓参り・旅行等)や友人・知人の訪問、馴染みの市場での買い物等、今までの生活感が出来る限り継続出来るようにするよう努めている。介護計画にも個別の生活を取り入れ支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が仲良く支えあって過ごせるよう、家事やレクリエーション、会話の際関わり合っていただくよう配慮している		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、必要に応じ同法人の老健をご紹介する等必要に応じフォローを行うようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントとしてセンター方式の気持ちシートを用いて、ご本人の気持ちに基づいたケアプランを作成するようにしている	入居者との日々の係わり(会話、言動、仕草・表情のキャッチ)に基づき「気持ちシート(センター方式)」を作成(全職員で)し、ご本人の『今』を理解し、その思い・意向を汲み取り日常生活の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境・馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等についてそれぞれアセスメントシートを用いてお聞きし、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ICFIに基づいて、本人のできる事に着目した介護情報シートを作成し、状態の変化に応じ更新している また、日々の介護記録等で現状の把握内容を共有し、特に重要な事は申し送りノートに書いて共有を図っている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医師等他職種から話を聞き、また全フロアスタッフの記入した気持ちシートから意見をとり、モニタリング内容と合わせて介護計画を作成している	入居者の思い・意向、家族の要望に職員・医療従事者等の意見を踏まえ有用性の高い介護計画を作成している。フロア会議(月1回)において現況確認を実施しモニタリング・見直しに繋げている。	一人ひとりの介護職員の観察力を高め、更なる本人本位の介護計画書の作成継続に期待をします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、入居者用申し送りノート、また気持ちシートに、日々の様子やご本人の気持ち、ケアプランの実践、結果、気づき等を書き込み、情報共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	契約で定めてあるサービス以外にも、緊急の受診の送迎、デイサービスに参加するなど、ニーズに即し柔軟に支援している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や地域の店舗、公園、医療機関、福祉センターなどの地域資源を把握し、ご本人の希望される生活に合わせてご紹介し、利用していただくよう支援している		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣にある診療所(内科)をかかりつけ医に希望された利用者には、スタッフによる付き添い支援をおこなっている 訪問歯科が毎週往診に来ている 他院受診が必要な際には、家族と協働している	定期的な協力医(内科)による往診(月2回)による健康管理を行っている。急変時の対応(24hオンコール体制)も整備されている。訪問歯科(毎週)も導入している。専門医受診は家族と協働している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応可の訪問看護ステーションと提携しており、訪問看護連絡シートを用いてケアスタッフと訪問看護師との間の連絡、相談を行っている		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人である旭診療所がこの地域の医療機関であるため、入退院時などの連携が取りやすい また普段から病院の相談員との関係作りにも努めている 入院時には頻りに職員が面会を行っている	入院中は入居者の不安感を軽減するため職員が面会に行くように努めている。病院・家族とは早期退院を前提に連携し情報を共有している。退院時には、予後に不具合が生じないよう情報を受けている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・終末期ケア対応指針を定めており、契約時ご説明し納得していただいているからご契約いただくようにしている 看取りケアについては、地域の医師・看護師等との連携の下事業所ですることを本人家族に説明し、どうするか選択していただいている	契約・入居時に「重度化・終末期への対応方針」を説明し理解頂いている(看取り介護の体制整備済)。実施においては、ご本人にとって望ましいケア・「生」となるよう関係者(本人・家族・医療関係者・職員)で相談・検討し進めている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応について職場内研修を定期的に行っている また、現在勤めているケアスタッフの全員に市民救命士講習、もしくは心肺蘇生の外部研修を受講させている		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の災害訓練、災害対応の研修を行っている 訓練には地域の方も参加されている 小野柄地域の防災ワークショップにスタッフが参加し、地域の一員として災害に備えている	年2回の消防・避難訓練(日中帯・夜間帯想定)を実施し、地域の方々にも参加頂いている(消防署の立会いあり)。職員は地域の防災ワークショップに出席し、防災マップ作りにも関わっている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に顧客として接する事を基本とし、話す際には丁寧語を使うように努めている。個性を大事にし、過ごしたいように過ごして頂けるよう個別ケアを重視している。プライバシーに配慮することを理念の一つとしている	入居者個々人の現況及び自尊心・羞恥心に充分配慮しながら入居者の『今』が充実できるよう支援している(今までの暮らしで培ってこられたもの(技能、趣味、特技等)が維持・継続する支援も含めて)。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	指示的な声かけを避け、ご本人の決定に従ってお世話するよう心掛けている。ただ、健康を害したり他利用者の迷惑になる行為についてはお聞きできない場合がある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで、可能な範囲で、一人ひとりのペースで生活していただいている。体操、レク等の参加は無理強いないようにする等、何をしたいかはご本人の希望に従ってご支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様は私服で過ごされており、化粧品も居室に自由に置いて頂いている。希望される化粧品、衣服の購入をお手伝いしている。月一回の訪問理容サービスを利用して、パーマやヘアカラーにも対応している		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	観察・嗜好アンケート等で個別の嗜好を把握・対応している。炊飯、盛り付け、片づけは入居者様と共に行っている。外食、クッキング、バイキング、餅つき等食事を楽しむ行事を行っている	入居者お一人おひとりの現況・嗜好等を踏まえた『食』が提供できるように努めている。盛り付け・配膳・下膳等は職員と一緒にしている。外食・クッキング行事は好評である。屋上菜園での収穫物も季節感を添えてくれる。	今後も様々な工夫(協働・形状・献立・外食・出前等)をされ、「食べる楽しみ・意欲」が継続できるように期待をします。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は個別に配慮している。食事・水分量チェック、体重チェック、採血により管理栄養士(居宅療養管理指導)が栄養ケア計画を作成している。また嚥下能力にあわせ、刻み食・トロミ等の対応を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導の下、毎食後口腔ケアを行う。様声かけ、介助を行っている。義歯は毎日洗浄剤にて洗浄している。訪問歯科時にも、必要があれば歯科衛生士が口腔ケアを行っている		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	就寝中以外はほぼ全入居者様にトイレで排泄していただいている チェック表を用いて排尿パターンを探り、個別の時間に排泄の声かけを行い、失禁を減らすよう工夫している	入居者個々人の現況及び排泄パターンとそのサイン(仕草・表情等)を把握しトイレでの排泄が行えるように支援している。夜間帯は、おむつ・パット交換、ポータブルトイレの方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防する為、十分な水分・食事摂取、体操等の運動の声かけに努めている また、粉末の食物繊維、下剤、座薬、看護師による摘便等で予防、対応を行っている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご希望には可能な限り浴うようにしている 少なくとも週2回の入浴はこちらから声掛けしている スタッフが2人になる夜間には、安全面から入浴をご遠慮して頂いている 菖蒲湯など、入浴を楽しむ行事も行っている	週2回以上の入浴を基本とし、個人のシャンプー・リンスを使われたり入浴剤(3種類)を選んで頂き心地よい入浴時間となるように努めている。季節湯(菖蒲湯等)や併設事業所の浴場も利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間・就寝時間は定めていない 安眠できるように、レクリエーションを工夫し日中の活動性を上げる様努めている また医師の指示の下睡眠薬の服用も場合に応じ支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の袋・申し送りノートにより薬の変更を全員で把握している 服薬確認を確実に言い記録している 訪問看護、スタッフ、薬剤師・医師(居宅療養管理指導)が連携して症状の変化の把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時アセスメント、3ヶ月毎のアセスメント(気持ちシート)、日々の様子観察により一人一人の生活歴、気持ち、能力に合わせた楽しみ、役割を工夫して提案し、楽しく生きがいを持って生活して頂けるよう努めている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の支援を積極的に行っている他、個別外出援助の表を作成し個別の外出も努めている また、遠足行事を行い、ご家族様にも参加協力をいただいでドライブにお連れしている	買物、散歩、屋上菜園への水遣り等、日常的に外気に触れる機会を意図的に設けている。個別外出表を作成し希望する場所等での時間が過ごせるように努めている(外食、ドライブ、花見等)。	個々の入居者のADL状態に応じた個別支援(外出)を今後も継続して頂くことに期待をします。

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者様のおこづかいを事務所でお預かりし管理しており、希望時には使えるよう支援している他、希望される方には小銭を居室で所持して頂いている		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはご本人からご家族等に電話や手紙を出せるよう支援している。フロアによっては、年賀はがきをご家族にお送りするようお勧めし、支援している		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に暖色系を用いた落ち着いた色合いにしている。オゾン脱臭装置を用いて常時脱臭を行っている。冷暖房完備しており、適時温度調節を行っている。入居者様と一緒に季節感のある飾り付けを共用空間に行っている。狭いなりに、テーブルや椅子の配置を工夫して安全・アメニティに留意している	フロア入口には季節の飾りつけ、フロアには季節行事の写真が掲示されている。リビングにはオゾン脱臭装置により快適な空気が流れ、見守りカメラ(死角対策)を設置し安全面にも配慮し心地よい生活となるよう環境整備している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は基本的には気のあった方同士自由に座っていただいている他、テレビ前にソファを設置し数名で歓談できるようにしている。他、フロアに数箇所、独りで座って居られる場所も設けている		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の馴染みの物や必要なものをご本人、ご家族に持ってきて頂いている他、希望をお聞きして一緒に居室に置いておく飾りを買っていく支援をしている	使い慣れた馴染みのもの(家具、仏壇、自作絵画、犬の写真等)を持ち込み心地よい居室となるよう支援している。洗面台が設置され衛生的であり、ADLの変化へも配慮した設えとなるように努めている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはお名前のプレートをはり分かりやすくしている。またトイレのドアには、トイレのマークを付けている。共用空間全体に、手で持てる机等を配置し、持ちながらできるだけ自立して歩行できるような作りに努めている		